

2025年5月1日

各 位

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

2025年 4月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	92.3
阪神梅田本店	95.4
支店 計	95.3
全店 計	93.6

※2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」を適用しておりますが、月次の売上速報および営業概況につきましては、当該基準等適用前の取扱高で開示しております。

○ 全店の概況

- ・ 前年高伸した反動とさらなる円高傾向により、免税売上が前年に対して約3割減と前月に引き続き苦戦。また、阪急本店、阪神梅田本店、川西阪急の大型改装も継続中につき、売場面積減少の影響も重なり、全店計の売上高は前年を下回った。一方、国内客の売上は前年並みと健闘。中旬まで気温が上下していたが、ようやく春物ファッションに動きが見られ、加えて、化粧品、食品の売上が各店堅調に推移した。

○ 阪急本店の概況

- ・ 免税売上の苦戦や改装に伴う売場面積減少が重なり、婦人ファッション全般の売上は前月に引き続き前年を下回ったが、不安定な気温が中旬まで続く中、ニットなど羽織りアイテムやパンツは堅調で、雑貨では帽子が好調だった。また、季節の変わり目も後押しし、化粧品の売上は前年を上回った。さらに、ブライダルニースの継続により、アクセサリや宝飾品が国内客に好調。100万円以上の高額品の売上高は、前年の約1割増と売上を下支え。
- ・ 26日にリモデルオープンした、性別やカテゴリーを超えた新ゾーン、3階「ビヨンドワールド」については、狙い通り29歳以下の高感度次世代顧客からの高い支持を受け、同場所の前年売上対比約4割増と計画を上回るスタートを切った。
- ・ 免税売上は、約3割減と前年を下回ったが、海外VIP顧客の売上は前年に対して約1割増と堅調。
- ・ 9日から約2週間、人気催事「北海道物産大会」を開催。好評の延べ約20種類がお楽しみいただけるソフトクリームや関西初上陸商品など、9階の祝祭広場で展開したスイーツの集積が集客に寄与し、幅広いお客様が連日ご来店。また、今回はアイスをはじめとする工芸品もお客様の反応が高く、春・秋を通じて過去最高の期間売上高を更新。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2024年度												2025年度
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
阪急本店	129.6	146.1	137.7	120.3	115.5	113.1	108.1	113.8	113.5	112.3	103.8	96.4	92.3
阪神梅田本店	105.8	108.8	109.2	105.3	109.5	81.5	106.9	79.2	109.4	90.6	92.4	92.1	95.4
支店計	110.4	112.0	116.7	107.5	105.3	105.1	100.5	103.8	101.7	101.3	98.0	97.7	95.3
全店計	119.9	129.1	127.1	114.1	111.1	105.8	105.2	105.8	108.7	106.0	100.6	96.4	93.6

■ 食品事業

関西フードマーケット	売上高前年比(%)
既存店 計	103.8

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 メディアリレーション部 TEL:06-6367-3181